

科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
71011	1	後期	選択	1	15
授業科目名 (英文)		認知科学 (Cognitive Science)			
担当教員名		阿部 廣二			
授業の概要及び到達目標					
ものを見る、話す、推測する、予測する。こうした能力のことを、「認知」と呼ぶ。漢字で書くと非常に難しそうに見えるが、我々の日常生活から切り離すことのできない身近な能力である。本講義では、人間の「知」と「心」の仕組みを、この認知という観点から理解していくことを目指す。とりわけ、身近な事例を認知科学の視点で考えることで、出来る限りわかりやすく人間の理解を深める。					
準 備 学 習 等					
講義はスライドを中心に進める。基本的には、身近な事例から人間の認知について考えていく予定である。したがって、身近なニュースなどを読み、認知的な視点から考え、まとめてくることが望ましい。授業では、ニュースなどを題材としたディスカッションの時間を設ける予定である（チャット（匿名）で行う）。なお、講義は、以下の文献の解説を中心に行う予定である。購読は強制ではないので、関心がある学生は、図書館で借りるなどして先に読んでもほしい。 ○配布予定文献 1. 認知科学とはなにか：『教養としての認知科学：第1章 認知的に人を見る』 2. 記憶①（基礎）：『認知心理学キーワード：第3章 記憶と忘却』 3. 記憶②（応用）：『証言の心理学：第3章 正解のない世界』 4. デザイン：『デザインド・リアリティ：序章 はじめに、1章 社会文化的サイボーグ』 5. コミュニケーション①（基礎）：『岩波講座コミュニケーションの認知科学 言語と身体性：2章言語の基盤となる推論能力』 6. コミュニケーション②（応用）：『エスノメソドロジーを学ぶ人のために：第1章 言葉を使うこと』 7. 学習：『認知心理学キーワード：第7章 学習と認知発達』 8. まとめとディスカッション					
成績評価の方法	レポート、授業態度などを総合的に評価する。以下、評価の割合である。 参加状況 15%、リフレクションシート 15%、最終レポート 70%、				
テキスト	授業時、適宜スライド資料を配布する。				

参考図書	森敏昭・中条和光.『認知心理学キーワード』. 有斐閣. 2005 有元典文・岡部大介.『デザインド・リアリティ[増補版]—集合的達成の心理学』. 北樹出版. 2013 鈴木宏明.『教養としての認知科学』. 東京大学出版会. 2015 高梨克也.『基礎から分かる会話コミュニケーションの分析法』. ナカニシヤ出版. 2016
備考	特になし。
授 業 計 画	
以下の講義スケジュールで授業を実施する。認知機能について解説を行った後、適宜ディスカッションを行い、理解を深めるといった流れで進める。解説には、基本的にはPowerPoint等のスライドを用いて進める。要点についてはPowerPointのプリントを配布する。講義の最後には、講義内容のリフレクションを行なうため、リアクションペーパーを書き、その提出を求める。 ○講義スケジュール 1. 認知科学とはなにか：『教養としての認知科学：第1章 認知的に人を見る』 認知科学の歴史や主要な研究を取り上げ、認知科学の機能的な捉え方の理解を深める。 2. 記憶①（基礎）：『認知心理学キーワード：第3章 記憶と忘却』 脳内の記憶表象の記銘・保持・再生など、人間の記憶機能について理解することを目指す。 3. 記憶②（応用）：『証言の心理学：第3章 正解のない世界』 第2回の講義を踏まえ、裁判に関係する記憶研究について紹介する 4. デザイン：『デザインド・リアリティ：序章 はじめに、1章 社会文化的サイボーグ』 我々の認知の「デザイン性」について紹介する。デザインに関する具体的な研究をしつつ、我々の認知の社会・文化性について議論する。 5. コミュニケーション①（基礎）（小テスト①）：『岩波講座コミュニケーションの認知科学 言語と身体性：2章言語の基盤となる推論能力』 人間の言語コミュニケーションについて理解することを目指す。特に言語コミュニケーションを行なう上で重要な認知機能である「推論」について具体的な研究を元に解説を行なう。 6. コミュニケーション②（応用）：『エスノメソドロジーを学ぶ人のために：第1章 言葉を使うこと』 第5回の講義を前提として、「推論」をベースとしたコミュニケーション理論の問題点について解説を行なう。特に、エスノメソドロジーという社会学から派生した理論を紹介する。 7. 学習：『認知心理学キーワード：第7章 学習と認知発達』 人間の学習について理解を深めることを目指す。特に、「個体的な学習」と「社会的な学習」という2つの対立する立場を紹介し、両者の立場の相違について解説を行なう。 8. まとめとディスカッション これまでの議論を認知科学的な観点から統合し、これまで紹介した人間の認知的機能を、全体的に整合的に理解することを目指す。	